

～ 多様な個性・価値観・ライフスタイルを尊重しあい、
無意識の思い込みやハラスメントに気づき、
誰もが健やかに成長や挑戦ができるキャンパスに～

Contents



- ◎ 活動報告
- ◎ 室員紹介
- ◎ 活動報告

プレコンセプションケアセミナー
小松 宏彰 さん
(医学部附属病院 女性診療科群 講師)
鳥大サバティカル体験談
企業見学会 (大阪環農水研、ダイキン工業TIC)



活動報告

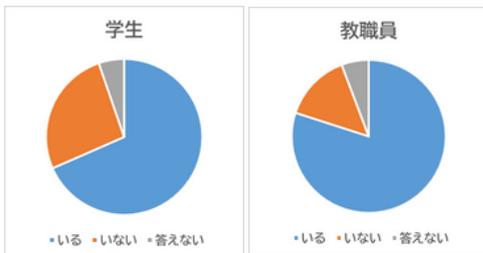
今の自分を知って、健やかな未来をデザイン

～プレコンセプションケアセミナーを実施しました～

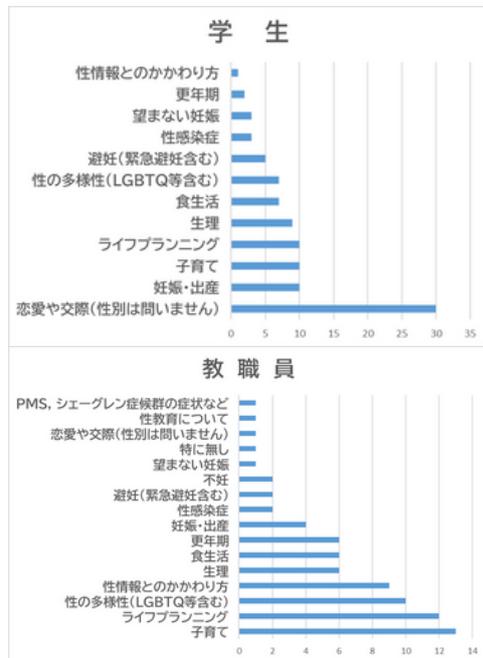


～事前の任意アンケートより～

恋愛対象としてお付き合いしている
(婚姻関係にある) 方



自他の生(性)について気になること



自分自身や他者の生(性)に関する正しい情報を理解して、健康的に学業・生活・仕事に取り組む機会として、2025年8月6日と9月17日、学生と教職員を対象に鳥取・米子キャンパスにてセミナーを同時開催しました。

多様なニーズに応じたテーマ設定

事前に実施した生(性)に関するアンケート(左参照)では、学生が最も高い関心を示したのが「恋愛や交際」であったのに対し、教職員は「子育て」「ライフプランニング」「性の多様性」など、関心が多岐にわたりました。これらの声も反映し、セミナーでは、千酌潤学校医から「月経前症候群(PMS)」「思春期やせ」「産後女性のカラダ」「男女更年期」など、幅広いテーマについてお話いただきました。

教職員向けセッション：健康課題と組織のサポート

特に教職員向けのセッションでは、女性特有の健康課題の話題からスタート。これらの課題が企業にもたらす経済的損失や、健康経営において高い関心があるにもかかわらず「どうサポートすればよいか分からない」という調査結果が紹介されました。

技術革新や持続的成長につなげようとする企業のダイバーシティ経営の取組みは、知の拠点として社会課題の解決に向き合う本学のビジョンとも重なります。個々の健康課題に向き合いながら学ぶ学生や働く教職員への気づきや対応が、魅力ある組織づくりのヒントになるかもしれません。

ただし、男女平等やジェンダーフリー社会といっても、個々の感情や考え方は多様です。性別特有の健康課題に取り組む際には、互いの心理的な状況や距離感も大切に、組織の階層構造にとらわれず、まずは信頼できる話しやすい人に困りごとを伝えてみることの重要性が示唆されました。

参加後アンケートより

アンケートからは、「自身の性や妊娠の希望の有無に限らず、職場や親戚、友人、パートナーとの関係において、性についての理解は大切だと思った」、「自分を大切にしたいことに気づける場」への期待や、「生理の知識をもっと異性にも知ってほしい」などの声が寄せられました。知識の提供だけでなく、誰もが自分を肯定し、お互いを尊重し合える風土づくりのための活動継続が必要だと示しています。

さらに、「女性の健康課題について理解しているつもりだったが、違ったことに気づかされた」という感想もあり、性の健康に関する学びは、常に更新が必要であることを実感させられます。

多角的なサポートと共催体制

セミナー後は、骨密度やストレス測定、妊婦体験、栄養指導、個別相談などの時間を設け、参加者は専門職によるアドバイスを受けました。

この取り組みは、ダイバーシティキャンパス推進室と保健管理センターが連携し、すべての人が自分らしく、健康に生きるための学びの機会を本学で実施するという趣旨をお伝えしたところ、鳥取市こども家庭センター、鳥取市・鳥取県保健所に賛同いただき、初の共催として実現しました。また、学内の先生方、推進室の学生スタッフや保健学科の学生など、ご協力いただいた全てのつながりに厚く感謝いたします。



学内eラーニングで
12月末まで視聴できます





私は現在、高校生・中学生・5歳の3人の娘の父親です。末娘が生まれた際には、2週間の育児休暇を取得しました。当時の教授であった原田省先生（現学長）が快く受け入れてくださり、また事前に医局へ周知していたことで安心して休暇を取ることができました。

この経験を通じ、男女を問わず育児や介護といったライフイベントに応じて時間を確保できる環境の重要性を実感しました。

育児の時間は二度と戻りませんが、仕事はいつでも取り組むことができます。

鳥取大学には、多様な背景を持つ人が安心して学び、働ける風土があり、私自身もその中で支えられてきました。現在は、ロボット手術や婦人科悪性腫瘍手術、さらに医学教育研究に力を注いでいます。

今後もDEI*の理念を大切に、家族とともに過ごす

日々を楽しみながら、次世代を育む教育・研究に努めていきたいと考えています。

*DEI…Diversity (ダイバーシティ・多様性) Equity (イクイティ・公平性/公正性) Inclusion (インクルージョン・包括性/包摂性)の頭文字をとった言葉。
ダイバーシティキャンパス推進につながる意識や行動を表しています。



活動報告 鳥大サバティカル研修体験談

2025年10月1日、対面とオンラインで、海外留学と研究者のキャリア形成、ワークライフバランスに関するセミナーを開催しました。

講師の国際乾燥地研究教育機構 谷口武士先生は、刺激的な研究環境や英語スキル向上、お子様への海外経験を求め、昨年度、研修制度を活用してカリフォルニア大学リバーサイド校で調査研究を実施。ご家族を伴う留学には、科研費獲得、業務引継ぎに加え、予防接種や安全な住居・学校の手配など1年かけて具体的な準備を行ったそうです。また、お子さんの異文化適応に関する苦労話やご夫妻の協力エピソードも紹介。

留学先の研究環境は、厳格なルール（講習に合格するまで研究室使用不可など）がある一方、大きな裁量と自己責任が重視され、リモートワークが一般的。上下関係の軋轢はなく、研究費獲得と学生指導による研究成果の発信を達成目標として活動していました。大学院生の多くが既婚でお子さんがおられ、子育てを分業し、仕事は人生を充実させるための1つとして捉えている様子や、常識や前例にとらわれず、目的達成を優先する考え方なども紹介。



帰国後は仕事に加え、お子様との時間を楽しむ意識の変化も。留学中からテーマを意識し共有いただいた具体的な知見に、参加者は刺激や勇気をいただいたとの感想が多く、大変有意義な機会となりました。

活動報告 企業見学会

2025年9月26日、学生のキャリア形成支援を目的に、キャリアセンターと共催して企業見学会を行いました。

訪問先は、鳥大の卒業生や研究者とつながりのある、大阪府立環境農林水産総合研究所（羽曳野市）と、包括連携協定を結んでいるダイキン工業のテクノロジー・イノベーションセンター（摂津市）。

参加したのは、工・農学部の学部1年生から4年生、持続性社会創生科学研究科や医学系研究科の院生ら18名で、研究開発職や技術職の方が働く様子や設備を見学しながら、仕事環境、勤務形態や研修制度、働き方などの説明を受けました。座談会では、若手職員やベテラン職員の方に就職活動や働きやすさ、社風など、積極的にたずねたりメモを取る姿が見られました。

参加後アンケートでは、訪問先特有の施設環境の工夫や職場の雰囲気を感じたり、職員の方との交流により働き方について気づきを得たり、「自分の将来のことを具体的に想像することができた」「サイトではわからないことを知ることができた」「とても有意義な時間」などの感想が寄せられました。



推進室は
地域学部棟 4Fです

休憩室・相談室
あります



〒680-8540 鳥取市湖山町南4丁目101

☎ 0857-31-5769 (内線2166)

✉ diversity@ml.adm.tottori-u.ac.jp

🌐 www.tottori-u.ac.jp/diversity/



Tottori University Office for Campus Diversity
鳥取大学 ダイバーシティキャンパス推進室

